



Go for it!

1 年 生 学 年 通 信
第 1 0 号
令和 3 年 1 月 1 8 日

昨日で阪神・淡路大震災から26年が経ちます。君たちはまだ産まれていなかった時の出来事ですが、13日の総合の時間の震災学習、14日の道徳、15日の避難訓練を通して、震災についてもう一度考える機会を作りました。震災のことを忘れないのではなく、震災について知ること、今私たちが居るのは、その当時を生き抜いたお父さん、お母さんのおかげだと感じられるはずです。命を繋いでもらったことを忘れないために…。

総合の時間を使って震災を経験された方のインタビューを読み、作文を書きました。

いつものように明日があると思っていた26年前の時、大震災が起きて亡くなった人や負傷者などがあり得ないほどの数で何気ない会話をした時が最後の会話だったりしたら、私は「もっとあの時たくさんはなしておけばよかった。」と後悔すると思う。だから悔いのない毎を送りたいと思った。

地震はいつくるかわからず、今から10分後に来るかも知れないし、1年後かも知れない。どんな大切な人も1度の地震で失うかも知れないと思うと未来が少し怖くなった。学校が避難所になって来た人達大切な人を亡くしてしまったり、家が壊れてしまったりした人が多いと思い、とても悲しくとても胸が苦しくなった。

こんなに身近にいた人が何人もこの地震で亡くなっていると思うとこの地震が朝にあったことも考え、とても怖いと感じました。さっきまで同じ空間で普段通り暮らしていた人が死んでしまう、けれど自分は生きているということがまたとても苦しいと思います。これから先長生きをして2021年のこの場所で生活ができていたであろう人も幼くして亡くなってしまうたり、同じ県、同じ市、同じ場所でいたからこそ苦しみがより強く伝わってきます。

自分がもし地震にあったらこの室田千江子さんの体験は絶対に耐えられないと思います。お母さんも近所の人も自分も怖い思いをして大変なのに人のために動いたりしてすごいと思います。最後の行に「命を繋いでいる。父の分まで」で、これから私たちがその思いを繋ぐんだなと思いました。

母の命が助かったのは良かったけど、父が助けられなかったのがつらい。あの時「お父さんが埋まっているから助けて！」と言ったときにまだ生きていたかも知れないのにとするととても切ない。母が父の分まで生きているのがとても感動した。一緒の場所に人が居るなら助けてあげたいと思った。1人でも多く助けてほしいし、助けてあげたい。

阪神・淡路大震災が起きて26年が経ち、これから時間が過ぎていくと経験された方が少なくなり忘れられるようになるかも知れません。そのために、私たちが次の世代に伝えて行かなければならないのだと、今回話を聞いて思いました。命の尊さをわかっていた気になっていましたが、今日聞いて、よりわかったと思います。

この地震がなければ失うことがなかったはずの家族を失ってとても悲しいし悔しかったと思います。けれど地震は誰のせいでもないからどうすることもできないとあきらめることしかできないのが1番辛いです。私はまだ阪神・淡路大震災のような大きな地震はまだ体験したこともないし、話を聞いただけだから、あまり実感できないけど、たくさんの人を犠牲にして今の生活があると思うとしっかりとこの生活を大切にしようと思います。

